

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】	○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども
		【目指す教師像】	○ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○授業力アドバイザー事業のアドバイスを受け、教員一人一人が自己点検を行いながら、個々の授業力の向上を図る。	○各教員は、「授業力自己診断」、児童には「授業アンケート」を実施し、そのデータをもとに授業力を向上させて学校独自の学力調査を行う。	4   全教員が「授業力自己診断」を実施した。	4   調査が前年比+2ポイント以上	3   80%~100%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	3   調査の正答率が前年比0~+2ポイント未満						
				2   70%~80%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	2   調査の正答率が前年比0~+4ポイント未満								
				1   70%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	1   調査の正答率が前年比-4ポイント以上								
				4   全教員がアンケートを実施した。	4   90%以上の児童がタブレットを活用している。								
				3   80%~100%未満の教員がアンケートを実施した。	3   80%~90%未満の児童がタブレットを活用している。								
				2   70%~80%未満の教員がアンケートを実施した。	2   70%~80%未満の児童がタブレットを活用している。								
		○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○校内研究を充実させると共に、学校独自のアンケートを実施し、結果を分析して対応策を講じる。	○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の推進を図る。	学校司書が中心となり、ボランティアや委員会等の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4   各学級で図書室を月4回以上使用した。	4   90%以上の児童が週に1度以上図書室を利用している。	3   80%~90%未満の児童が図書室を月3回以上使用した。	3   80%~90%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。				
						2   70%~80%未満の児童が図書室を月2回以上使用した。	2   70%~80%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。						
						1   70%未満の児童が図書室を月1回以下使用した。	1   70%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。						
						4   各学級で図書室を月4回以上使用した。	4   90%以上の児童が週に1度以上図書室を利用している。						
						3   各学級で図書室を月3回以上使用した。	3   80%~90%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。						
						2   各学級で図書室を月2回以上使用した。	2   70%~80%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。						
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを発揮し、安心して生活できるようにする。	○年2回の家庭生活アンケートから児童の自己肯定感を数値化し、個々の児童に応じた指導をする。	4   全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4   80%以上の児童が自己肯定感があると感じている	3   80~100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	3   70%以上の児童が自己肯定感があると感じている						
				2   70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	2   60%以上の児童が自己肯定感があると感じている								
				1   70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	1   自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった								
				4   すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	4   95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た								
				3   70%~100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	3   85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た								
				2   40%~70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	2   80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た								
		○児童の自己有用感を高める活動を行う学級活動を実践する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行うようにする。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4   全教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4   学級生活満足度が50%以上	3   80%~100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	3   学級生活満足度が40%以上				
						2   70%~80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	2   学級生活満足度が30%以上						
						1   70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	1   学級生活満足度が30%以下						
						4   全教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4   95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た						
						3   70%~100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	3   85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た						
						2   40%~70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	2   80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た						
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○低・中・高の系統性を意識した年間指導計画の作成及び体育的活動の充実を図る。	4   全教員が計画を活用した指導を行った	4   調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上	3   80%~100%未満の教員が計画を活用した指導を行った	3   調査結果が昨年比+2ポイント						
				2   70%~80%未満の教員が計画を活用した指導を行った	2   調査結果が昨年比-2ポイント以内								
				1   70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	1   調査結果が昨年比-2ポイント以下								
				4   全教員が計画的な授業を実施した	4   90%以上の児童が目標を達成している								
				3   80%から100%未満の教員が計画的な授業を実施した	3   80%~90%未満の児童が目標を達成している								
				2   70%から80%未満の教員が計画的な授業を実施した	2   70%~80%未満の児童が目標を達成している								
		○新しい生活様式の習慣化を図り、健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4   全教員が食育計画を活用した指導を行った	4   90%以上の児童が食育のめあてを達成している	3   80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	3   80%~90%未満の児童が食育のめあてを達成している				
						2   70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	2   70%~80%未満の児童が食育のめあてを達成している						
						1   70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	1   70%未満の児童が食育のめあてを達成している						
						4   全教員が食育計画を活用した指導を行った	4   90%以上の児童が目標を達成している						
						3   80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	3   80%~90%未満の児童が目標を達成している						
						2   70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	2   70%~80%未満の児童が目標を達成している						
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	入学時時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分を指す「キャリアパス」を作成する。	4   全教員が方策を実施した	4   90%以上の児童が安心して進級・進学できる	3   80%~100%未満の教員が方策を実施した	3   80%~90%未満の児童が安心して進級・進学できる						
				2   70%~80%未満の教員が方策を実施した	2   70%~80%未満の児童が安心して進級・進学できる								
				1   70%未満の教員が方策を実施した	1   70%未満の児童が安心して進級・進学できる								
				4   全学年の教員が交流体験を実施した	4   90%以上の児童が目標を達成している								
				3   80%~100%未満の学年・教員が交流体験を実施した	3   80%~90%未満の児童が目標を達成している								
				2   70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した	2   70%~80%未満の児童が目標を達成している								
		○学校の取組を、保護者や地域に向けて発信し、教育活動への参画意識を高める。	○学校ホームページや学校だより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動を発信する。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	○学校ホームページや学校だより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動を発信する。	4   各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した	4   80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。	3   各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した	3   50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。				
						2   70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した	2   70%~80%未満の児童が目標を達成している						
						1   70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	1   70%未満の児童が目標を達成している						
						4   各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した	4   80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。						
						3   各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した	3   50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。						
						2   各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した	2   20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。						

--	--	--